

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	保育所等訪問支援事業所つくしんぼ		
○保護者評価実施期間	令和7年10月31日	～	令和7年11月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	54	(回答者数) 43
○従業者評価実施期間	令和7年10月31日	～	令和7年11月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 4
○訪問先施設評価実施期間	令和7年10月31日	～	令和7年11月28日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	37	(回答者数) 30
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8年 2月 15日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	支援のバリエーションを豊かに、場面に応じた支援を検討、提案することができる。また、生活の流れに応じて問題、課題を抽出し、それを基に対象児に提供する内容、求める行動を考え提案することができる。	なるべく、長い時間観察し、個別、集団での対応を行う機会を設け、対象児にとって受け入れやすい環境、学びの方法を検討するよう心掛けている。	現在の取り組みを継続する。
2	個別支援と訪問先職員への助言を、保護者、訪問先の希望を確認しながら組み合わせ、対象児の生活・社会性スキルの向上と、訪問先職員の保育、教育活動上の選択肢が増やせるような支援が行えているのではないかと考えている	保護者、訪問先、相談支援専門員の意見を幅広く確認し、訪問先の生活、課題にフィットする形の支援を実施できるよう心がけている	現在の取り組みを継続する。
3	日常生活動作、コミュニケーション、社会性についての評価を細かく実施したうえで、目標の設定を行っている。具体的に課題を解決するための方策を、保護者、訪問先と共有しながら支援を実施するようにしている	事業所で準備している、アセスメントシートの活用と共に、訪問先の様子をよく確認するなど、インフォーマルなアセスメントにより情報を多く、細かく確認できるよう心がけている。	現在の取り組みを継続する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員は、それぞれ担当している園に支援に出掛けるため、担当している園、児童についての情報交換を職員間で行うことの難しさを感じる。	支援の担当場所がそれぞれ違うことが大きな原因ではあるが、基本的、基礎的なところの考え方、技術的な部分を共有しにくいところがある。	話し合いの時間をどのように設定するか、また、考え方、技術的な部分を共通の視点で話ができる方法を検討する必要がある。
2	担当児童を職員で割り振ることについて、年度途中で利用申し込みがあった際に、担当の割り振りを見直す必要が生じることがある。最大限受け入れを進めるが、人員がギリギリになることが毎年続く。	最大限の受け入れをを目指しているが、利用申し込みの傾向等を把握しにくい事業であるため、職員配置に余裕を持たせることが難しい。	他事業も含め、予算配分を見直し効率的に事業実施できる方法を検討する。
3			